

日銀短観（2016年6月調査）の概要

中堅・中小企業が悪化

日本銀行が7月1日に発表した2016年6月（回答期間：2016年5月30日～2016年6月30日）の全国企業短期経済観測調査（短観）は、注目度が高い大企業製造業が横ばいだったものの、中堅・中小の製造業や非製造業は軒並み悪化となりました。今回の調査は6月24日に決定した英国の欧州連合（EU）離脱の影響をほとんど織り込んでいないものとみられます。以下、概要です。

- ① 大企業製造業の業況判断D I（景況感「良い」から「悪い」を引いた割合）はプラス6で、前回（3月）調査と同様。今回調査における大企業製造業の2016年度の想定為替レートは1ドル＝111円41銭で前回調査より6円ほど円高方向に修正されました（図表3）。足元の一段の円高が、自動車等の業種の輸出収益を悪化させることも想定されます。（図表1、図表2）
- ② 中堅・中小企業は製造業・非製造業ともに悪化となり（中堅企業の製造業の業況判断D Iは4ポイント、非製造業は3ポイント 中小企業の製造業は1ポイント、非製造業は4ポイント悪化）、円高による収益悪化懸念が根強く先行きも悪化しています。（図表1、図表2）
- ③ 大企業全産業の2016年度の設備投資計画は前年度比6.2%増と、前回調査の0.9%減から上方修正となったものの、昨年6月調査の2015年度計画（9.3%増）の水準を下回っています。製造業は12.8%とおおむね堅調な推移を示していますが、非製造業が2.7%と6月調査時点としては2011年度以来の保守的な計画となっています。英国のEU離脱問題が世界経済に与える影響が読み切れないこともあり、今後、慎重な投資姿勢に傾く大企業もあるとみられます。（図表4）

図表1：業況判断D I（2016年6月）

（「良い」－「悪い」、ポイント）

		2016年3月調査		2016年6月調査			
		最近	最近	最近		先行き	
				変化幅(*1)	変化幅(*2)	変化幅(*1)	変化幅(*2)
大企業	製造業	6	6	0	6	0	
	非製造業	22	19	-3	17	-2	
	全産業	13	12	-1	12	0	
中堅企業	製造業	5	1	-4	0	-1	
	非製造業	17	14	-3	10	-4	
	全産業	12	9	-3	6	-3	
中小企業	製造業	-4	-5	-1	-7	-2	
	非製造業	4	0	-4	-4	-4	
	全産業	1	-1	-2	-5	-4	

(*1) 2016年3月調査比 (*2) 2016年6月（最近）比

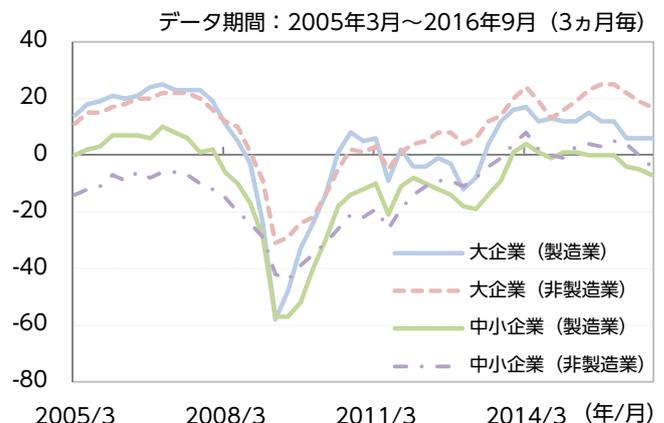
図表3：想定為替レート（大企業・製造業）

（円/ドル）

	2016年度		
		上期	下期
2016年3月調査	117.46	117.45	117.46
2016年6月調査	111.41	111.46	111.36

※事業計画の前提となっている想定為替レート

図表2：大企業および中小企業の業況判断指数の推移



※2016年9月は2016年6月調査による先行き見通し

図表4：大企業の設備投資計画

（前年度比、%）

大企業	2015年度	2016年度（計画）	(*3)
			2016年度（計画）
製造業	8.4	12.8	3.1
非製造業	1.0	2.7	-2.9
全産業	3.4	6.2	-0.9

(*3) 2016年3月時点での2016年度計画

出所：図表1～図表4は日銀短観データを基にニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではありません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント